

2014年から継続的に芝学園取材し、武藤校長先生はじめ、数多くの先生方からご指導いただいた記者が編集しています。主観見解を含みますが、先生方の了承の上、掲載しています。

進学実績は迫力に満ちて、各プログラムの質に優れます。しかしながら、真価が際立つのは、長きにわたり醸成された教育文化です。ここでは、学園文化を読み解く指針をお話しします。

男子の保護者に必須^{ひつす}レクチャー

芝学園文化論 2024



「芝楽」必見必聴ムービー集 公式YouTube

少年たちにとって、保護者にとって
芝に託すべき理由は「チーム芝」

壮快な男子教育プロ集団



受験生を力づける！
◀◀芝漬ポスター

■記者インプレッション —— 芝教諭（チーム芝）に宿る校風。まさしく学園文化の表れ。

- ◎個性派エンタテイナーが多数。「オレについてこい！」ではなく、「ともに楽しもう♪」。
- ◎トップダウン改革ではなく、各教諭の「生徒想い」が融合して、ライブに「更新」。
- ◎個人技に長けながら、理念とともに結束が固い。陽気なチームワークで生徒を導く。
- ◎自教科愛が熱いインテリジェントな研究者タイプが主流。（生徒以上に純真^{まこと}純朴^{じゆんぱく}？）
- ◎学園スベックを誇示せず、外来教育論を叫ばず、生徒を称える発言を重ねて清々しい。

手を離して、目を離さず

男子を育てる基本セオリーです。

ところで、

保護者・指導者は「目」の位置は？

芝ディスタンスの妙

宿泊を伴う校外学習のプランは生徒自身。「何を求める？」「何処へ行く？」から着手。白紙を与えるシーンは芝エデュケーションの象徴。ただし、自由奔放型ではありません。指導者は見守り見とどけます。喻えるなら、グラウンドの片隅で練習試合を見つめるコーチの距離感。手は届きませんが、声は届きます。要所は、「常に生徒の視界内」です。

自立期は干渉を嫌うのに、保護者や先生の評価を求めています。「目」が遠のくと志気を失います。助言を求めるなら、数秒、駆け寄るだけ。快調なら、「きっと先生が応援してくれている」と発揚。手取り足取りで自立を疎外しがちな成長期、芝のディスタンスが絶妙です。

指示・号令は、男子を縛り、反抗の火だね
だから、対話で促す「遵法自治」

「グローバル！」「メディカル！」と領野を限るスローガンを浴びせずに、「キミは、どの方向に向かう？」。エラーを頭ごなしに矯正しない。「なぜ、失敗？」「これからどうする？」と理由対処を問う。自ら奮い立つ、自ら改める。チーム芝は子どもたちの自然の生命力を信じるからです。

【Close Up】学園文化が色濃く映る

図書委員会の熱気

爽やかな主体性 軽やかな実行力

委員会はクラス代表型ではなく
自発有志参画型。（定員もなし）

cf. 学校図書館は、蔵書約6万冊

外向/外交

学校図書館にこも
らず、広く社会へ

■紀伊國屋書店とコラボレーション。ブックフェア「芝中学校・高等学校男子中高生のイチオシ本」を開催。（2022年9月～2023年11月）

- 他校の図書委員会と交流して意見交換。定例会（with鷗友・渋渋・城北）に加え、2024年夏は、芝の投げかけに応じた13校が賑やかに集結！
- 学園祭で古本市を開催。売り上げは、日本赤十字社に寄附。（2024年も出店します！）
- 中3Aくん 2023年読書推せん文コンクール入賞（主催：公益財団法人 博報堂教育財団）
- 年2回書店に出向いて「選書ツアー」を開催※。書店担当者への打診から「生徒主体」で進行。選んだ本はすべて図書委員自ら心を込めて丁寧に「ブッカー貼り」して配架。
- 区立図書館と連携。 ※記者所感 セレクションがマニアック！

メンタルタフネス

学業優等生は、要領がいい？

いや、芝生は「容量が大きい」と表すべき。

芝生は、やっぱり、都会派スマートでしょうか？ 実は、精神的には、パワフル&エネルギーギッシュ。「不得手^{うづり}を乗り越える」「辛くても遣り遂げる」経験を積んでいるからでしょう。でも、「歯を食いしばっている」との疲れた印象は希薄です。とにかく、楽しそう。

授業だけでは物足りないと、大学レベルの学術書を抱えていく強者は芝らしい。「図書館学習」、「調べ学習」と力まずに、純粋に趣味教養として書籍と親しむ読書人が集います。これも芝らしい。年間400冊を借りた生徒はパワフル！（1日あたり何冊？）

*上記は図書館司書教諭W先生のお話に基づきます。

テーマ いき 気 学園祭

公式Instagram▶



9月14日(土)・15日(日)

有志実行委員は、総勢450名。準備期間は8か月。毎年、感涙のフィナーレ！

芝生は幸福です。

「善き友をもち、善き仲間とともにある」

最高格式私学の気概

2026年 創立120周年

源流は屈指の名刹増上寺の教育機関
（江戸時代初期創設）

歴史上、根から掘り起こすような大改装がなく、毅然^{きぜん}と揺るがず「芝」のまま、常に日本屈指の名門でありつづけた誇り高き私立学校。およそ120年のとき、守り継ぎ、温めつづけた文化は、濁らず澄んで濃厚濃密。子どもたちの胸中に染みわたるでしょう。

トップ進学校は進学大学ばかりを注視。ただし、「さすが、芝！」と、伝統校の気概を体感するのはOB社会人です。各界の「中堅」が数多。彼らは「人間的に超一流の青年」です。中高期に、煌めく先輩諸氏から芝スピリットを注ぎ込まれるでしょう。

学園が育てあげるのは東大生・医大生…ではない。高みを目指す「芝生」です。

学園理念 ともいき 共生 いまあるすべてのいのちの連綿とした繋がり^{つな}を大切に、その中にある自らを自覚すること

芝中学校

〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-37
TEL 03-3431-2629
東京メトロ日比谷線「神谷町」徒歩5分
都営地下鉄三田線「御成門」徒歩7分

東京港区、丘の学園、少年たちの広場

間近に、東京タワー・芝公園・麻布台ヒルズ・大使館。
坂道を歩みのほれば、喧騒離れて、ビル影届かず、
時津風浴びて、陽光注ぎ、晴れやかに、伸びやかに。



<http://www.shiba.ac.jp/>